



# 福部地区公民館だより

第189号 令和8年2月発行  
 福部地区公民館 鳥取市福部町細川66  
 TEL:75-2817 FAX:75-2564  
 メール:cc-fukube@it.city.tottori.tottori.jp

地域の仲間づくり事業  
**『季節はずれのシュトーレンづくり』**  
 日時:3月7日(土) 10:00~12:00  
 場所:福部町コミュニティセンター  
 講師:出井 順子さん 対象:一般  
 ※ 申込受付は終了しました。

## 事業報告

### ～終活セミナー～

1月29日(木)、ファイナンシャルプランナーの伊木恭憲さんを講師にお招きし、これから迎える老後について、具体的な事例を交えながら資金の備え方や相続する際のポイントを教えていただきました。



### ～ミニパウンドケーキをつくろう!～

2月1日(日)、鳥取市食育アドバイザーの出井順子さんを講師にお招きし、子どもたち13人がミニパウンドケーキを作りました。



### ～子どもと大人の味噌づくり教室～

2月15日(日)、福部アイデア館を会場に親子1組を含む参加者が集まり、味噌づくりを体験しました。自宅で夏を越すまで熟成させると、おいしい無添加味噌になります。



### ～癒しのヨガ③～

2月19日(木)、大久保由香さん [ハル・ムラ・チナ] をお招きし、3回目のヨガ教室を開催しました。これから迎える春に向けて、体の使い方や日常生活のアドバイスをいただきました。



## 3月行事予定

※予定は変更になる場合があります。ご了承ください。

日	曜日	福部地区公民館 (0857)75-2817	福部町コミュニティセンター (0857)30-8667
1	日	福部町敬老会	
2	月		絵手紙
3	火		
4	水		しゃんしゃん体操
5	木		
6	金		ロコモ
7	土	公/シュトーレンづくり	書道
8	日		
9	月		オカリナ
10	火		
11	水		
12	木		
13	金		ロコモ
14	土		書道
15	日		
16	月		
17	火		
18	水		しゃんしゃん体操
19	木		
20	金	春分の日	[休館日]
21	土		書道
22	日		
23	月		オカリナ
24	火		
25	水		
26	木		耕心大学
27	金		
28	土		
29	日		
30	月		
31	火		

公/公民館委託事業

**福部町敬老会の開催について**  
 日時:3月1日(日) 9:30 受付開始  
 場所:福部町コミュニティセンター多目的ホール  
 ～参加をご予定の方はお気を付けて会場にお越しください～

## ～福部まちづくり協議会より～ **福部町まちづくり推進大会を開催**

2月7日(土)、福部町まちづくり推進大会が開催されました。

猟師・県議会議員の山本暁子さんに『ITエンジニア獣道に行く』と題し講演を、浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会委員長の太塚尚生さんには『地域の人たちの笑顔を増やすために』と題し活動発表をしていただきました。

97名の参加があり、今後のまちづくり活動を進めていく中で見識を深めるよい機会となりました。



↑ 山本暁子さん

山本県議が仕留めたキツネとクマの毛皮を展示。参加者は手に取って、本物の感触を確かめられました。↓



↑ 太塚尚生さん



## 《福部町内の文化遺産》

～不定期掲載～

### 【福部の歴史を語るもの】 福部町内の古墳壁画《高江6号墳の線刻壁画》

古墳の石室内の壁面に絵や図文が描かれている古墳が希に見つかることがある。これは、古墳時代に埋葬された死者に対する葬送儀礼によるものと考えられているが、それらの壁画は彩色されたものと鋭い金属を用いて線刻されたものとに区別され、比率は線刻されたものが圧倒的に多い。

全国では、300基以上の壁画古墳の所在が知られており、特に熊本県と鳥取県に高い密度で所在している。その鳥取県内では、県東部を中心に約60基の線刻壁画が確認されており、それらの大半は鳥取市の空山、稲葉山の周辺地域に集中し、福部町内には「高江6号墳」と「上野山6号墳」に線刻壁画が描かれていることが確認されている。

今回は、高江6号墳についての紹介として上野山6号墳は次回に掲載させていただくことにした。

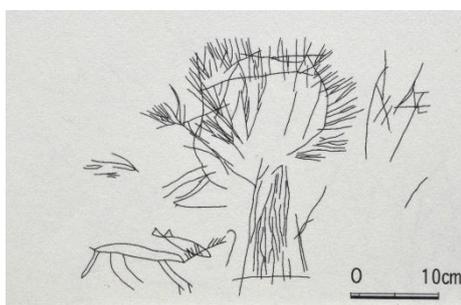
高江6号墳は、高江集落の南山中の後背地に所在しており、周囲は昭和の終わりまで樹園地として営まれていたが、現在は荒廃地に変貌している。築造当時は、厚い封土に覆われていたと思われるが側壁と奥壁、巨大な天井石の1石載っているのみで、果樹肥料等の仮置き場となっていた。

古墳は、残存する石材の構築形態から古墳時代後期～終末期のこの地方によく見られる横穴式石室よこあなしきせきしつと呼ばれる埋葬施設で、開口した石室は羨道と棺を安置する玄室とを区分する左片袖石せんどうが残る。残存する羨道部は約1.0m、玄室長は1.5m、幅は0.8mを測り、高さは土砂が流入していることから0.8mまでを確認できる。奥壁は割石で大きな1枚岩と左に細長の1枚で構成されている。

線刻壁画は、大きな1枚岩の中央でやや上部に枝を丸く張った高さ27cm程度の「樹木」、その左根元に10cm程度の角を持つ「シカ」状の動物、「魚」と思われる線刻画が描かれている。

この線刻壁画は、死者を埋葬する施設内に描かれていることから、死者に対する鎮魂、追悼等をこめて偶像化したものであろうと推察されているが、古墳に埋葬される被葬者となるとそれなりの地位にあった人と推察されることから、生前の営みの一端を意図したもの等も推定の範囲と考えられている。

今回紹介した線刻壁画は、希に横穴式石室に描かれたもので、この時代の生活様式等を知る根拠となる稀少で唯一の資料であることから地域の宝として後世に引き継ぎたいものである。



〈参考文献〉

鳥取県教育委員会  
「鳥取県装飾古墳分布調査概報」1981  
福部村 「新編 福部村誌」2001